

静岡市防災会議 議事録

静岡市防災会議

令和5年2月6日

令和4年度 静岡市防災会議

- 1 日 時 令和5年2月6日(月) 午後1時から午後3時
- 2 場 所 グランシップ 1001-2 会議室
- 3 出席者 委 員：会長（市長）及び委員 38 人（うち代理6人）
事務局：危機管理総室長、危機管理総室理事、危機管理総室次長
以下、危機管理総室職員

- 4 傍 聴 者 2名
- 5 内 容 (1) 開会
(2) 挨拶
(3) 議事
 議題 静岡市地域防災計画の修正
(4) 意見交換
 テーマ 台風第15号検証中間報告を踏まえた危機管理体制の強化
 ア 令和4年台風第15号と線状降水帯について
 イ 本市の地球温暖化対策への取組
 ウ 災害発生時の自衛隊の活動
 エ 台風第15号に係る災害対応の検証について
 ・台風第15号における静岡市の被害・対応状況
 ・台風第15号に係る災害対応検証
(5) 閉会

- 6 会議内容

(1) 開会 事務局 (危機管理総室 斎藤理事)

(2) 挨拶 静岡市防災会議会長（田辺静岡市長）

会長（田辺静岡市長）

台風第15号では、今日ご出席の皆様にはそれぞれの立場で大変なご尽力・ご支援をいただいた。市行政を代表してお礼申し上げる。

今年は国の激甚災害に指定された大災害があった年だった。これは、昭和49年の七夕豪雨以来のことである。不幸中の幸いは市内で直接災害によって亡くなる方がいなかったことである。七夕豪雨では尊い23人の命が奪われたが、50年間の先人の努力によって治山、治水対策が施された結果、今回は亡くなる方がいなかった。

しかしながら床上浸水、土砂崩れ、道路の寸断、集落の孤立化、清水区を襲った断水等、行政としても想定外の災害であった。

そこで、今回は台風第15号検証中間報告を踏まえた危機管理体制の強化についてそれぞれの立場から率直な、忌憚のない意見をお願いしたい。厳しいことも含めて、専門家の立場から、あるいは市民の目線からご発言をいただきたい。皆さんの意見に耳を傾けて検証の最終報告案に反映させていきたいと思っている。代理の方についても、今回の災害に直面した率直な意見、市民の一人としての様々な思いについてご発言をいただきたい。

年に一回の防災会議は形式的になりがちだが、市長としてなるべく実質的な双方向の会議にするよう微力を尽くしてきたつもりである。私にとっても市長として最後の防災会議になるため、集大成として実りのある実質的な意見交換をしたい。それぞれ出席者のご協力をお願いしたい。

（3）議事

会長（田辺静岡市長）

議事録署名人の指名（静岡市防災会議運営要領第8条）

国土交通省中部運輸局静岡運輸支局 岡田委員

日本赤十字社静岡県支部 鈴木委員

議題 静岡市地域防災計画の修正 事務局（危機管理総室 杉村係長）

資料1、2に基づき説明。

会長（田辺静岡市長）

この修正案についてのご意見やご質問は事前に書面にて伺っているため省略し、さっそく今回の議題の修正案について諮りたい。

拍手多数（賛成多数）と認め、承認する。

(4) 意見交換 各機関からの報告

ア 令和4年台風第15号と線状降水帯について（静岡地方気象台 高嶺気象台長）

イ 本市の地球温暖化対策への取組（環境創造課 佐藤課長）

ウ 災害発生時の自衛隊の活動（陸上自衛隊第34普通科連隊 石田副連隊長）

エ 台風第15号に係る災害対応の検証について（危機管理総室 梶山統括監）

・台風第15号における静岡市の被害・対応状況

・台風第15号に係る災害対応検証

報告資料（資料3、4、5、6）に基づき説明

柳野委員（静岡国道事務所）

- ・台風第15号の際には、市の建設局と密接な連携の上、災害対応への支援を行った。
- ・大規模な自然災害時に、地方公共団体を支援する緊急災害対策派遣隊「TEC-FORCE（テックフォース）」について早期に要請していただけるよう、活動事例等を周知していく。
- ・国が派遣したりエゾンが支援に必要な市のニーズを早期に把握できるようにするため、関係部署から人材が集まり、情報や意思決定機能が1箇所に集約された対策本部室を立ち上げる必要があったのではないかと。

梶山委員（危機管理総室）

- ・被害範囲が一部という特殊な災害であったこともあり、各部署の現場対応を優先させてしまった。計画にある通り、まずは情報共有のため、情報がない中でも、関係部署を1か所に集めることが重要だった。

山内代理（清水海上保安部）

- ・台風第15号の際には、市の水道局と情報を共有しながら、給水対応を行った。
- ・海上保安庁としては、今回のような陸上災害であってもできる限り地元へ寄り添った支援を行っていきたい。

滝川委員（清水港湾事務所）

- ・台風第15号の際には、清水港が災害発生時の仮置き場として活用された。
- ・市の建設局、海洋文化都市推進部、港湾管理者である静岡県、また地元の建設業の方々などと連携して何とか対応したが、事前の仮置き場の想定も含め、災害が起こる前に、こういった体制を準備しておくことが大切である。

柳原委員 (静岡県トラック協会)

- ・市とは災害協定を結んでおり、“物流を止めない”というキーワードで対応した。
- ・週末、休日、夜間に起こった災害であったこともあり、事前に把握していた連絡網が上手く機能しなかった。そのため、トラック協会、倉庫協会、静岡市における24時間365日連絡が取れるような連絡網を整備する必要がある。
- ・大災害を想定した防災のスペシャリストを育てる活動が必要である。

梶山委員 (危機管理総室)

- ・特定の協定先や団体等だけではなく、チーム体制としての連絡網を構築していきたい。
- ・短期的及び中長期的の両面で、災害対応の職員育成をこれから進めていく。

会長 (田辺静岡市長)

- ・自衛隊に経験のある職員を即戦力として静岡市に迎えたいとお願いをし、昨年12月から本日の司会を務める斎藤理事に着任をしてもらった。現在は、危機管理統括監の補佐をしてもらっている。

斎藤理事 (危機管理総室)

- ・これまでに培った専門知識や経験を活かし、人材育成を含め、市の危機管理体制の強化、充実を図っていきたい。

池谷委員 (市議会)

- ・自治会長や地域の防災役員が被災した時には、どこから情報を収集するのか。
- ・これからは、自治会に入っていない人や入っても交流が少ない人などからも情報収集をする必要がある。
- ・市民一人ひとりから情報を吸い上げる仕組みとして何を考えているか。

梶山委員 (危機管理総室)

- ・市民からの情報収集と市から発信する情報を一つのプラットフォームでやりとりできる総合情報サイトを、当初のスケジュールより半年前倒しで、令和6年10月から運用開始できるように準備を進めている。
- ・スマートフォンなどの端末を活用できない市民に対しては、避難所に設置する電子機器等での対応を考えている。

中村委員 (自治会連合会)

- ・山間部と都市部では、自治会による助け合い活動も異なっていた。
- ・行政機関等への連絡先が分からない状況だった。
- ・氾濫、土砂崩れ、流木が発生している原因として、管轄である静岡市にも責任があると思う。

佐藤委員 (しみず女性の会)

- ・巴川流域における浸水被害は今回で 2 回目なので、何か根本的な対策が必要ではないか。

会長 (田辺静岡市長)

- ・これまでは七夕豪雨時の雨量に対する取組を実施してきたが、これからは今回の台風第 15 号での雨量に対する取組を実施していかなければならない。
- ・併せて、豪雨の原因である地球温暖化への対策も実施していかなければならない。

川村委員 (男女共同参画フォーラムしずおか)

- ・減災に向けた訓練が必要である。
- ・検証の中に、市民サイドの視点を入れてもらいたい。
- ・市民サイドで有効だったものを、次回の災害対策に活用してもらいたい。

古郡委員 (消防団)

- ・災害時、困ったことがあったら、地元の消防団員にまず相談をしてほしい。

松浦委員 (静岡県中部地域局)

- ・県として、台風第 15 号の対応を振り返り、各市町を対象とした意見交換会を実施し、その結果を踏まえ、今後の対応策を取りまとめた。
- ・災害発生直後に大きな被害が出た市や町にあらかじめ指名した職員を「市町支援機動班員」「市町情報収集要員」という形で派遣し、被害情報の収集や災害対策本部の運営など災害対応全般の支援をすることとした。
- ・現在は危機管理に携わっていないが、過去に携わった職員を潜在的な人材として班員に指名し、今年 1 月に「市町支援機動班」を発足した。

(5) 閉会

静岡市防災会議の議事録は、以上のとおり相違ないことを確認する。

令和 5 年 3 月 22 日

(議事録署名人)

委員 岡田 英雄

令和 5 年 3 月 23 日

(議事録署名人)

委員 鈴木 亨